

ゴルフ場業界を取り巻く環境（2014年9月）

～ 2014年ゴルフ場の新たな試みと挑戦 ～

「スポーツの秋」到来。

50年前の10月に開催された東京オリンピックから、日本では秋の定番言葉の1つになりました。

今年は、「スポーツの秋」らしい話題に溢れています。

日本サッカー代表監督はアギーレ新監督に代わり、次回のワールドカップに向け、新たなスタートが切られました。テニス界では錦織選手が、テニス全米オープンでアジア人男子初のグランドスラム準優勝と、テニス界に新たな風を吹き込み、巷間ではテニスブームが再燃しました。

ゴルフ業界でも、プロ2年目20歳の鈴木愛選手が、日本女子プロ選手権というメジャー大会で、宮里藍選手が持つ最年少優勝記録を塗り替えました。

明るい話題とは裏腹に、ゴルフ場業界では「2015年問題」という課題が喫緊に控えています。

少子高齢化により、ゴルフ対象人口の大量減少が推測され、更にライトユーザー（年に数回プレーする方々）の減少も危惧されています。

それを乗り越えたら次は、日本が超高齢化社会に突入する「2025年問題」が待ち構えています。

ゴルファーとゴルフ場のバランスが更に大きく崩れ、経営困難に陥るゴルフ場が噴出する可能性もあります。また預託金問題を抱えているゴルフ場は、今年3月の個人の税制変更の影響もあり、償還問題が経営に大きく押し掛かると予測されます。

ゴルフ場業界を取り巻く厳しい環境の中、前途に光明を見つけ出すために現状打破し、

未来への生き残りをかけて独自のサービスの創出に取り組んでいるコースも多く現れてまいりました。

よって、今回のレポートは「**2014年ゴルフ場の新たな試みと挑戦**」に関してお届けします。

【その1:コース改修の試み】

コース改修は、コースメンテナンスと共に、プレーヤーにとって重要なポイントです。

コースの特色が顕著に表れ、人気ランキングの要因にも関わります。

今期は、名門コースと呼ばれるゴルフ場での改修工事の発表・着工・完了が増えました。

〈関東、主な改修コース〉

☆府中CC（東京）

☆武蔵CC（埼玉）

☆厚木国際CC（神奈川）

☆横浜CC（神奈川）

☆取手国際GC（茨城）

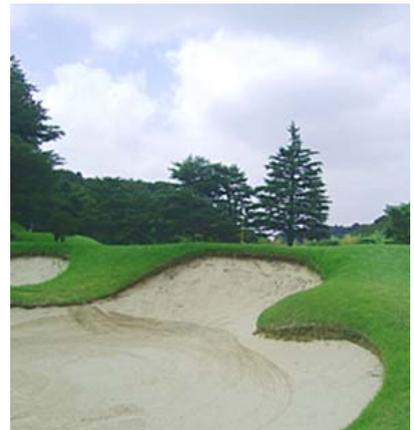
各コースに共通する点は「グリーン」まわりの改修です。

「1 グリーン化」を進める傾向が強まりました。日本では、気候の面からも「2 グリーン」が主流でしたが、1グリーンにすることで、戦略面とコスト面からのメリットが享受されます。

1 グリーンへの変更により、グリーン上に複雑なアンジュレーション、グリーン回りのバンカーや池の設置が可能となり、戦略性が増します。その後の管理費も2グリーンに比べ抑えられるようになります。

また、武蔵CCと厚木国際CCは全長距離も伸ばしました。チャンピオンコースが、更に戦略性を高める取り組みを行った事は、ゴルファーから高く評価されています。

コースが新しくなることにより、プレーヤーもまた新鮮な気持ちでプレーが楽しめ、来場回数にも繋がることでしょう。



【その2:付随施設のリニューアルの試み】

クラブハウスもプレーヤーにとっては、関心のあるポイントの1つです。

歴史の古いコースでは、クラブハウスの老朽化とともにメンバーの高齢化も進んでいます。

よって、今まで以上に使いやすさを念頭に置いたリニューアルが求められます。

ゴルフが長く続けられるように、ゴルファーをハード面からサポートする事は大変嬉しい配慮です。

最近の施工傾向

- ◆バリアフリー化 . . . 武蔵CC (埼玉)
- ◆女性向け施設・メニューの充実 . . . 太平洋クラブ
- ◆W I F I 環境 . . . 軽井沢72 (長野)
- ◆室内練習設備 . . . 山代GC (石川)
- ◆天然温泉設備設置 . . . 宇陀CC (奈良)

ゴルフプレーヤーの高齢化にも対応し、エレベーターやスロープや手すりの設置を中心に見直しも図られつつあります。



また、女性ゴルファーへのサービスも加速しています。ゴルフ会員権では、過去には女性の入会を認めないというコースも存在しましたが、現在では、女性プレーヤー向けに女性ロッカー・パウダールームの増設、女性限定レストランメニューの設定という女性をメインターゲットにしたコースも増えています。

飲食店でも、女性に人気のお店は常に満席であり、将来、ゴルフ場においても女性会員専用コースが出てくるのも時間の問題かもしれません。



ケーキセット

練習場を室内に設け、コースでプレーする人以外でもクラブハウスを利用可能とする試みもありました。雨天関係なく練習ができ、またコースと併設する事により、練習場からコースへ出るハードルを下げ、プレーしやすい環境を提供するという工夫です。

そして「**ゴルフと健康**」というキーワードから、ゴルフの疲労回復に繋がる温泉を導入するコースも出てきました。敷地内に温泉を掘削して、美人の湯と云われる弱アルカリ性温泉をゴルファーに提供して喜ばれています。温泉目的で、このコースをセレクトするゴルファーも少なくないとの事です。

利用できるのはプレーヤーだけに制限しているので、利用価値と独自性が增大しています。

【その3:GPSナビ導入の試み】

セルフプレーを導入しているコースは数多あります。しかしセルフプレーは、スロープレーが増加し、弊害も生じやすくなります。いくら値段が安くても、長時間プレーはコースの評判を下げ、結果リピーター率に影響します。

GPSナビの導入により、マスター室でカート全体の進行状況や渋滞箇所をリアルタイムで把握して、ゴルファーの進行を促し、ロスタイムを最小限にしようと努力しているコースが増えています。セルフでもゴルフ場が進行をきちんと管理して、スムーズにプレーできるコースは、ゴルファーに喜ばれます。

☆よみうりGウエストC（兵庫）

☆蓼科東急GC（長野）



【その4:次世代育成の試み】

2015年問題にも直結した若者のゴルフ離れが叫ばれています。

リクルートグループが「ゴルマジ!20」という企画で、今年度20歳の方を対象に賛同されたゴルフ場の9ホールのプレー代無料、練習場1時間無料というイベントを行っています。

以前より、「スナッグゴルフ」親子大会を開催して、ジュニア育成に熱心なコースもありましたが、他コースでも、次世代プレーヤー育成の為、独自のジュニア育成を手助けする試みが出てきています。

直接プロからレッスンを受けることが出来るイベントや、親子で参加して、ゴルフという共通の話題を通じて親子間でのコミュニケーションを深めてもらう試みも始まっています。

直近だけでなく、将来を見据えて種をまくという試みは、より活発になっていくことでしょう。

- ☆穴戸ヒルズ、静ヒルズ（茨城）
- ☆東急グループ
- ☆那須国際CC（栃木）
- ☆LPGA（日本女子プロゴルフ協会）
- ☆山梨県ゴルフ協会（山梨県ゴルフ協議会・山梨県ゴルフ場支配人会・山梨県プロゴルファー会・山梨県ゴルフ連盟の4団体による構成）



【その5:他業種とコラボイベントの試み】

ゴルフだけでなく、他業種と連携して集客を考えているコースも増えました。

<トータルコスト down の試み>

レンタカー会社とゴルフ業界が連携して、平日レンタカー割引プランを打ちだしました。

ゴルフ場のプレーフィーは変わりませんが、プレーヤー側はレンタカーを4人で利用すれば、トータルコストは安くなります。レンタカー会社は、利益率は下がっても、課題の平日回転率をUPさせられます。

- ☆NGK（日本ゴルフ場経営者協会）とニッポンレンタカー

<多目的利用の試み>

ゴルフだけでなく、アウトドアや他のスポーツとの融合により活性化を図るコースも見受けられます。

クラブハウスの屋上や、コース内の遊休地にバーベキュースペースを設けて、一般の方々にもゴルフ場を開放しています。手ぶらで来場しても、施設側で全ての食材や機材を用意してくれているので、手軽に利用できる点をアピールしています。

- ☆越谷GC（埼玉）



またランニングやウォーキングコースとしてゴルフ場や周辺施設を提供しているコースもあります。早朝、コース周辺をウォーキングのコースとして提供し、自然を満喫してもらうことにより、ゴルフ場の景観を楽しんで頂こうという試みです。

☆芦ノ湖CC（静岡） ☆相模湖CC（神奈川） ☆アジア取手国際CC（茨城）

<レストランメニューでの試み>

レストランでの楽しみを増やす試みを開始しているコースも増え始めています。人気サイトである「クックパッド」とのコラボで、人気メニュー上位3位メニューをコースで提供、マスコミで著名な川越シェフがプロデュースしたメニューを提供等。美味しさに加え、食べてみたいという人間の欲求をそそる付加価値をつけました。

☆PGMグループ ☆太平洋クラブ

ゴルフというスポーツと縁が薄かった方々に対し、コース自ら間口を広げることにより、ゴルフ場を身近に体感してもらい、ゴルフに興味を持って頂く機会を提供し始めています。

【後記】

これからのゴルフ場には、「**圧倒的付加価値**」が求められます。

圧倒的な景観なのか、圧倒的なメンテナンスの良さなのか、圧倒的な戦略性なのか、圧倒的な美味しい食事なのか、スタッフの圧倒的なホスピタリティなのか、圧倒的な社会貢献なのか。

価値÷料金=1以下でなく、価値÷料金=2以上という「**圧倒的なコストパフォーマンス**」が、競争優位性を高め、魅力を高め、感動を高め、他のコースとの「**圧倒的差別化**」を生み出します。

時代とともに社会は変化します。

そして時代の変化と共にゴルファーの求めるモノも変化します。勿論、いかなる時代が来たとしても不変の原則は残ります。ならば自社の強みを活かし、何を加え、何を捨て、何を变えるのかを問う必要があります。今後のゴルフ場は、新たな独自の魅力を創造することが重要になります。

現在の新規会員募集を行っているコースを調査した結果、首都圏で（東京・神奈川・千葉・埼玉・茨城・栃木）65コースありましたが、残念ながらメンバーに対しての**新しい圧倒的サービス**は皆無でした。

ビジター1名での予約ネットシステムを導入するコースが増加等、ビジター集客のアイデアは世の中に続々出てきていますが、メンバーのための新しいアイデアは、ほぼ止まっています。

2015年、2025年に向けて、まだまだゴルフ場は、新たな試みや挑戦が必要です。
しかし残念ながら、ゴルフ場によっては、行き過ぎた合理化の結果、従業員の疲弊が増大し、大切な愛社精神とやる気が失われてしまっているコースさえあります。

何のためにゴルフ場は存在するのでしょうか。
自社の強みと理念を見直す原点回帰も必要でしょう。
そして自社らしさをより強く打ち出すことが、重要なポイントになります。
しかし、動かなければ、挑戦しなければ、何も始まりません。

失敗しない人は成功しない。何故ならチャレンジしないからである。 ～松下幸之助 氏～

チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしない事を恐れる。 ～本田宗一郎 氏～

成功の反対は失敗ではなく、何もしないこと。 ～中村天風 氏～

社会環境の変化が緩やかな時代であれば、前例を踏襲するだけで通用し、楽だったかもしかかもしれません。
しかし今は、過去に通用したやり方やその場凌ぎの策では、太刀打ち出来ない時代になっています。

ますます厳しい環境が待ち構えるゴルフ場業界ですが、
大きなビジョン、理念と信念を持って魅力あるコースに生まれ変われるゴルフ場は、生き残ります。

**お金もお客様も蝶々と一緒と云われています。追いかけると逃げてしまいます。
しかし、自分が花となり蜜(魅力)さえ持てれば、お客様は自然と集まって来るものなのでしょう。**

そして、ゴルフ場の弛まぬ努力とともに置き去りにしてはならないのが、国の協力と努力です。
ゴルフ場の努力と国の努力の両輪が揃って初めてスムーズに前に進みます。

厳しい環境下のゴルフ場に追い討ちをかけている、
2重課税である**ゴルフ場利用税の撤廃**と高額過ぎる**ゴルフ場固定資産税の見直し**も同時に取り組まなくては、
片手落ちに終わってしまう危険性を内包しているからです。

ゴルフプレー料金をよりリーズナブルにして、ゴルフ人口の増加とジュニアを含めゴルファーの底辺の拡大を
推し進めるためには、クリアしなくてはならない課題です。